

天溪 2025 年「アンナプルナ内院 13 日間」

「アンナプルナ内院 13 日間」を 11 月 14 日～11 月 26 日に行いました。

2025 年 最後のツアーはヒマラヤのアンナプルナ内院。以前この地を訪れたのはコロナ直前の 2019 年 10 月下旬。話は飛んで 20 年前のアンナプルナ内院は本当に寒い極寒の地、野外のテーブルは白く霜が降り、屋内の水はコチコチに氷り、標高 4130m の少ない酸素(平地の 6 割)に震えました。しかし、ヒマラヤも温暖化なのかこの時期にしては気温が高く、宿泊ロッジは厚手の布団が完備され快適なトレッキングが出来ました。以前と少し違うのは 10 月末に降ったアンナプルナベースキャンプ(ABC)周辺の積雪(20cm)。ベンガル湾で発達したサイクロンが 10 年に 1 度この時期のヒマラヤに大雪を降らせます。記憶に新しいのは I 峰(8089m)の真後ろ、トロンパス(5416m)中心に起きた 2014 年アンナプルナ遭難の悲劇でしょうか。



(I 峰のモルゲンロート 6:30 分 11 月 21 日)

○アンナプルナ ABC

6 年ぶりのこの地の道路はジヌー方面、ガンドルン方面へ以前に増して延長され、最初の宿泊地は車の終点からチョー長いつり橋を渡った所のジヌーダнда。この地から 20 分ほど河原に下ったヒマラヤの温泉(鉱泉)につかり、明日から始まる内院トレックに備えました。まず心掛ける事は歩行スピード、ご参加の皆様は幾分年齢が高く、高山病のリスクを避けながらゆっくり登ります。入山 2 日目は急坂を 2 時間ほど登った所のチョムロン村。アンナプルナサウス・ヒウンチュリ・マチャプチャレの山並みを素晴らしいテラスで満喫。3 日目からはトレック巡航速度に戻り、バンブー、デウラリ、そして ABC に向かいました。



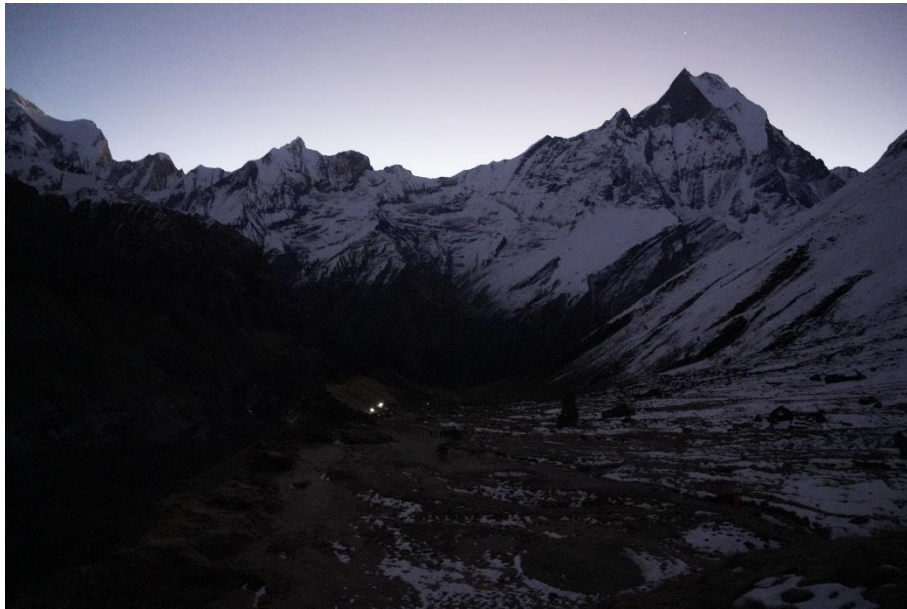
(チョムロン展望 11 月 18 日)



○アンナプルナ ABC

早朝のアンナプルナベースキャンプ、夜空が白みかけたころ下方からはライトの列。夜中にロッジを出発し ABC を目指す人達で、いわば弾丸登山。この地に来てまでこんな登山をするのは勿体ないと思うのですが？

下の 2 枚の写真は日出 40 分前にロッジ裏で写したもの。残照の逆バージョンで、昼間の喧騒と違い神々しいアンナプルナが浮き立って見えます。そして、朝焼けを迎え山々に朝日が当たると頂は生き返った様に輝きます。計画はアンナプルナかマチャプチャレのベースキャンにもう 1 泊でしたが、既に目的を達成された皆様は高地に留まる事無く下山を選ばれました。天溪のヒマラヤツアーは既に 30 回を越えますが、ここ内院は簡単に登れて素晴らしいヒマラヤ景色が見られるお奨めポイントです。ただ難点は例外にたがわずこの地もオーバーツーリズムですネ！



(マチャプチャレ 5:50 分 11月21日)

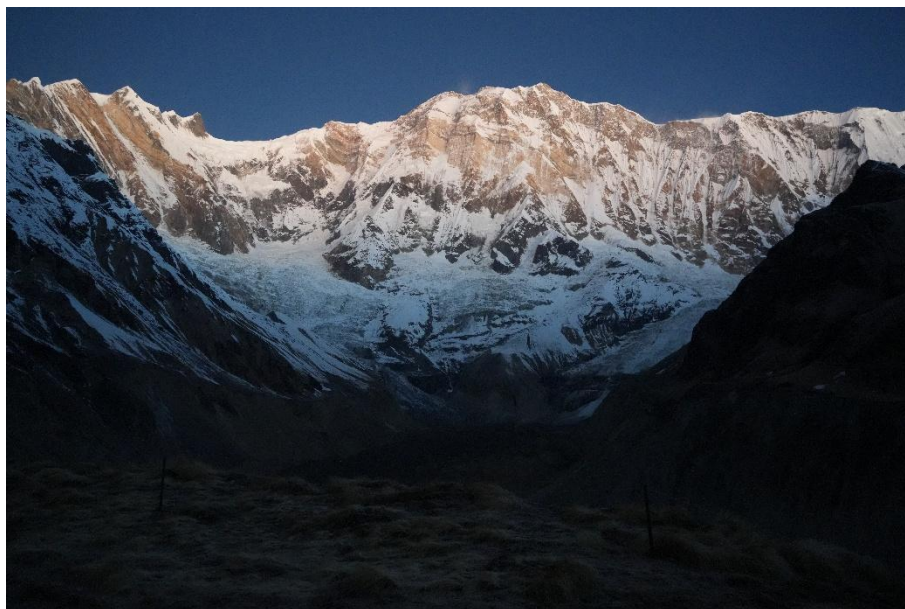


(霊峰マチャプチャレ)



(アンナプルナベースキャンプ)





(アンナプルナI峰 5:51 分 11月21日)

○下山

ABC からヒマラヤ、チョムロンと下り、最後に初日に泊まったジヌーダнда、そして再び温泉へ。前にも書きましたが今年は温暖で、何時も11月上旬に満開を向えるヒマラヤ桜が丁度見ごろでした。7000mの俊峰を背景に輝く桜はとても綺麗で、嘗て高峰に挑戦したクライマー達が偲べれます。

さらに下るとそば畑、この地のそばの花は赤色ですが日本で栽培すると不思議な事に白色になるそうです。丁度そば、米やひえ、里芋など農作物の収穫期で奥地の村々から街に向かうロバの商隊が活躍していました。



☆その他（広告）

ヒマラヤから帰国が11月末、師走に入り、そして年末年始が終われば次はミルフォードトラックのニュージーランド。このツアーは誠に申し訳御座いませんが満席です。

南半球、特にミルフォードトラックやパタゴニアのパイネ、フィッツロイは総じて人気があり、この地域をご希望される場合は少なくとも来年5月頃には2027年の旅行予約をされる事をお薦めします。

秋に咲くヒマラヤ桜



(アンナプルナ 3 峰とヒマラヤ桜 11 月 23 日)

今年も色々お世話になりました。

2026 年も何卒、宜しくお願い申し上げます。

天溪 赤沼